

相対性原理を広めよう

(大正・昭和期の科学者たちの交流)

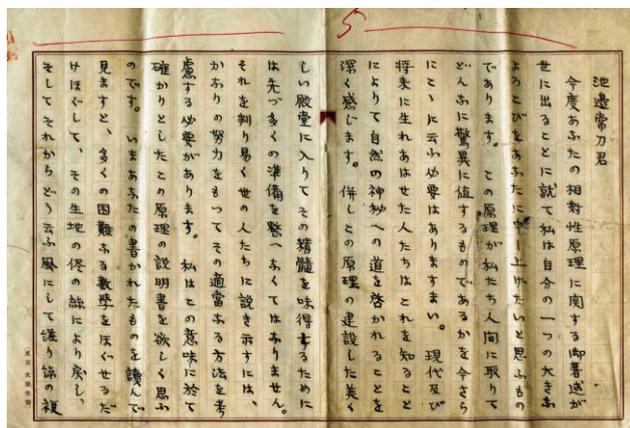
—池辺常刀旧蔵文書—

今でこそ、アインシュタインの名や、相対性原理の（内容はともかく）存在について知らない人はいません。しかし、ノーベル賞をとった難解な理論が知られるようになったのには、それなりの歴史がありました。今回展示する石原純や池辺常刀など、大正・昭和期の科学者たちの努力があって、現在の知名度が得られたのです。

石原純（いしはら あつし 1881～1947）は、当時の著名な物理学者で、東北帝国大学創設期から教授陣の一角を担っていました。アインシュタインが来日した際に通訳もつとめています。

石原の恩師が長岡半太郎（ながおか はんたろう 1865～1950）でした。1926年に東京帝国大学の教授を退職した後も、理化学研究所主任研究員として、日本を代表する科学者でした。

ここに展示するのは、彼らの教えをうけながら、相対性理論の紹介を行った池辺常刀に対する、石原や長岡の書簡類です。そこに示された科学者たちの交流は、「科学立国日本」の成長しつつある姿を感じさせます。



石原による池辺の著書『特殊一般相対性原理』の序文原稿。

「あなたへの手紙のように書いてみた」という説明がある。